

遠高規第 4 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

遠野市長 本 田 敏 秋



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

日ごろ当地方の道路事業に対しまして特段の御理解を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記のことについて、別紙のとおり提出します。

① 道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案等

- 1 事業の選択を進める上で特に優先度の高い政策として、①地域経済が活力あるものにするためにも、地域の産業振興への寄与度の高い広域物流ネットワークの形成。②安心・安全な暮らしへの寄与度が高い高次救急医療施設までの早急な搬送経路の確保と大規模災害時の物資輸送路の確保や積雪寒冷地等への対策としての道路整備。③都市から地方への交流・移住の貢献度の高い都市と地方を結ぶ道路網の充実を要望します。
- 2 現在、東和から遠野に向けて工事が進行中の東北横断自動車道は、救急医療、防災・減災対策及び地域経済の活性化からも、予算を集中投資して早期に全線開通することを要望します。
- 3 当市には約 500 の橋梁があり、橋梁点検を実施のうえ、平成 25 年度までに橋梁長寿命化修繕計画を作成しなければなりません、多額の財政負担を伴うため実施できない状況にありますので、橋梁点検に要する補助枠の拡大と補助額の増額を要望します。
- 4 当市は、1,200 kmを超える市道の老朽化が進み、将来にわたり健全な道路維持管理により長寿命化を図ろうとしています。計画的な修繕や適切な管理のための財政措置を要望します。
- 5 当市にとって「生活道路整備」や、「橋梁補修等」の財源として、「地方道路整備臨時交付金」は大きな役割を果たしております。今般、道路特定財源の見直しにより、「地方道路整備臨時交付金」が廃止になると、市の道路整備に大きな影響を及ぼすことが考えられます。いままで遅れてきた地方の道路整備、都市部との格差をこれ以上、増大させないためにも、「地方道路整備臨時交付金」制度の存続・拡大を図るとともに、併せて「道路整備臨時貸付金」制度の存続を強く要望します。
- 6 道路事業の採択にあたっては、今まで道路の交通需要から費用対効果が求められ、必然的に都市部の交通量が多い道路が優先的に整備されてきました。しかし、本来公共交通の発達した都市部と違い、自動車に依存しなければ生活できない地方部にとって、整備の必要性・優先度が交通需要だけで判断される現在の評価手法では地方の実情をきちんと評価しているものとは考えられません。真に地方にとって必要な道路整備をきちんと評価していただくためにも、「地震や豪雨等の災害時の通行止め」の影響を考慮した便益、「救急医療施設への搬送時間」を考慮した便益、「冬期の積雪・凍結による交通影響」を考慮した便益等について、きちんと評価した上で地方の道路整備の必要性・優先度等の判断をしていただくよう要望します。
- 7 観光産業にとって、道路は命そのものであります。移動時間の短縮は交流人口の拡大を意味しているので、将来にわたって計画的に道路整備を推進されるよう要望します。

②-1 地域の現状と課題

岩手県遠野市

○現状

- 1 医師不足（産婦人科）により広域救急医療搬送に頼らざるえない医療体制、高速交通体系の未整備により地域経済活性化に向けた企業誘致が進まない現状、良好な観光資源はあるものの、高速交通体系の未整備に伴う長時間移動により観光客が伸び悩んでいます。
- 2 当市には約 500 の橋梁があり、橋梁点検及び修繕が必要です。
- 3 当市は、1,200 km を超える市道の老朽化が進んでいます。
- 4 当市は、「永遠の日本のふるさと遠野」としてのまちづくりを進めており、毎年多くの観光客が訪れます。日本の原風景を大切にしたい観光地として、電柱の地中化等について観光客から求められています。
- 5 一般国道 340 号は、岩手県陸前高田市を起点とし、青森県八戸市に至る総延長 255km の道路であり、産業・経済・観光を支える極めて重要な広域幹線道路であります。
現在、国道 340 号整備促進期成同盟会では、当路線内の 18 箇所にあつた道路整備を要望しており、とりわけ遠野市土淵町恩徳から下閉伊郡川井村小国に至る小峠・立丸峠地区の区間は、幅員が狭いうえ急勾配で急カーブが多く、車のすれ違いに難儀しています。
- 6 三陸沿岸は、2003 年までに 99% の確立で、宮城県沖地震が発生すると予想されています。予想される地震災害や津波による被災に対し、速やかに対応できる後方支援拠点施設が必要であると考えます。
- 7 道路の路肩や法面の草刈をしても、すぐ伸びます。
- 8 主要な観光地までの歩道が、途中までの整備となっています。

○課題

- 1 高速交通体系が未整備なため、地域の医療体制が確保できません。また、企業誘致や観光振興が進まず地域活性化が困難となっています。
- 2 多額の財政負担を伴うため、財源の確保が課題となっています。
- 3 将来にわたって健全な道路維持管理を行うための財源の確保が課題となっています。
- 4 電柱の地中化には多額の費用を要するため、実施できない状況にあります。少額の費用で電柱の地中化ができる工法と財源の確保が課題となっています。
- 5 立丸峠地区のトンネル化の要望活動を行っていますが、着手に至りません。
- 6 昨今の大規模災害において、支援機関の受入体制、支援物資の収集運送機能、活動部隊への指示命令系統など、多くの課題が残されています。今後予想される地震災害による被害に対し、速やかに対応できる後方支援施設が必要です。当市は、地質が安定しており、災害に強い地域であり、当市の半径 50 km 圏内に沿岸地区と三陸地区、さらに内陸部の盛岡市や奥州市まで包括し、ヘリコプターで 15 分の距離であり、沿岸の地域地震災害後方支援拠点施設の立地条件がよい場所ですが、整備の方法が未定であります。
- 7 年間に数回の草刈が必要ですが、費用の確保が困難なため回数を減らしており、交通安全に支障をきたしています。
- 8 観光地間の歩道が整備されていない区間があり、歩行者や自転車の安全確保が必要です。

②-2 地域の目指すべき将来像

岩手県遠野市

遠野市が目指す将来ビジョンは、「永遠の日本のふるさと遠野」の実現のため、内陸と沿岸の交流拠点・遠野広域経済圏として発展します。

そのため、東北横断自動車道釜石秋田線における東和・遠野間の整備、平成 19 年 3 月に供用開始した仙人峠道路などの社会資本を利活用し、広域的な連携による産業振興や暮らしの安全確保に向けた人的交流や物的交流のネットワークを図り、活発な遠野広域経済圏の形成を目指します。

また、35 年に及ぶ市民センター構想による地域づくり活動の実践を土台とし、これをさらに発展させ、市民参画型の視点に立った「市民と行政の協働の地域づくり指針」に基いて、「遠野らしさ」を大切にしたい、元気で明るい協働のまちづくりを進めます。

快適な居住環境においては、道路、水路、污水处理などの生活に身近な環境の一体的な整備を進めるとともに、魅力ある中心市街地の形成や公営住宅の整備を図ります。

交通基盤においては、地域活性化に不可欠である沿岸と内陸を結ぶ広域連携軸の整備を促進するとともに、市民生活の利便性を高めるために市道の整備を推進します。また、総合交通対策として、効率的で快適性と利便性を兼ね備えたデマンド交通をシステムの構築を図ります。

安心安全な地域づくりにおいては、災害・救急などに総合的に対応できる消防防災拠点の整備や組織体制の強化、地区単位での自主防災組織の育成を図るとともに、関係機関や団体、地域が一体となった交通安全や防犯活動を推進します。また、ケーブルテレビの活用による全市的な情報の共有化と地上デジタル放送への対応に取り組み、情報基盤の整備を隣接の住田町にも拡張しています。

商工業においては、遠野地域ビジネス支援システムを活用したコミュニティビジネスの起業化や新分野進出など企業の経営革新を促進するとともに、産学官民連携の共同研究を進め、遠野ブランドの確立による地場産業の成長を目指します。さらに、自立した遠野広域経済圏を目指して中心市街地（遠野まちなか）の賑わい創出や、特産品による物産振興を推進します。

観光においては、永遠の日本のふるさと遠野のイメージを大切にしたい誘客を広く展開するとともに、郷土芸能やまつりなどの各地域での取り組みを大切にしていきます。

交流のまちづくりにおいては、都市間交流の充実を図るとともに、I・J・Uターンの受け入れを積極的に展開して、交流から第2のふるさと遠野への定住人口の拡大を目指します。

市民との協働においては、市民とともに築いてきた市民センター・地区センター機能の一層の充実を図りながら、市民と行政が協力して取り組む協働の指針を策定した。地域づくり団体等がまちづくりを主体的に行うための地域活動への支援、連携、協力の仕組み構築と担い手となるリーダーの育成に努めます。

今後の道路行政について意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

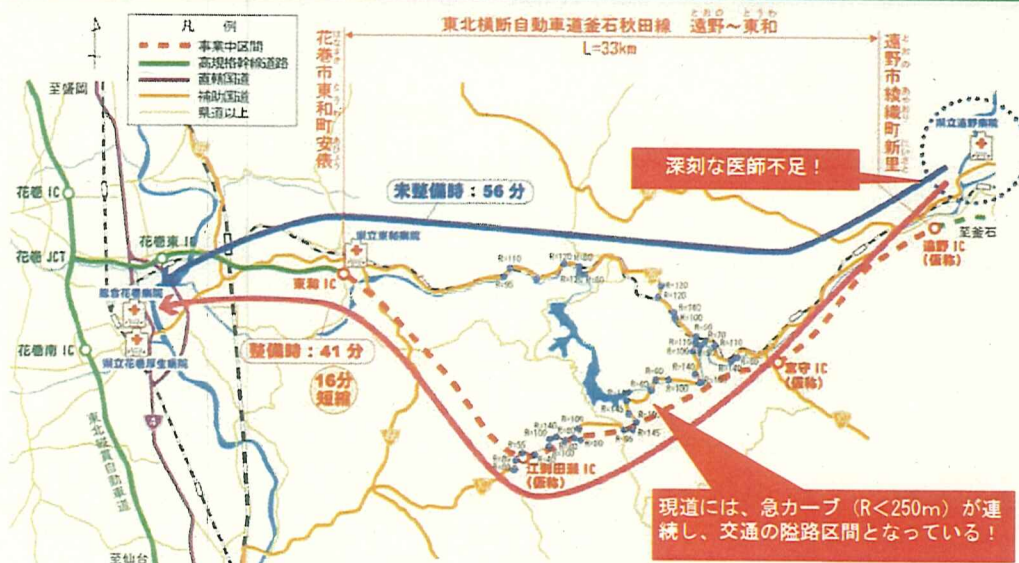
岩手県遠野市

○重点事項	○代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
1 地域活力の向上	・ 東北横断自動車道の早期全線供用。	・ 地域間交流の活発化 ・ 物流の活発化による誘致企業の増加及び地域経済の活性化 ・ 緊急医療施設への時間短縮による医療体制の確立 ・ 近年発生すると言われる大規模な地震や、津波発生における災害支援拠点基地の確立 ・ 遠野・花巻地域の各医療機関が相互補完し、地域医療サービスの連携強化 ・ 市場までの時間短縮が可能となり、新鮮で質の高い農水産物の出荷増加 ・ 内陸と沿岸、県南と県北への周遊道路の整備により、県外からの更なる観光客の増加 ・ 災害時における後方支援拠点としての強化	
2 少子化対策・子育て支援	・ 遠距離通院されている妊婦さんと家族の不安解消・負担軽減と産後のケアに至るまで、妊産婦さんをサポートしていくため、遠野健康福祉の里の中に遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」を開設しています。 助産院では、市内で分娩できる医療機関がないことからお産は取り扱いませんが、市の助産師が	・ 医療機関との連携で妊婦遠隔検診可能 ・ 電話予約・少ない待ち時間で検診可能 ・ 道路の整備により、救急搬送が必要になったとき、医療機関との連携により迅速・安全に救急搬送をすることが可能	

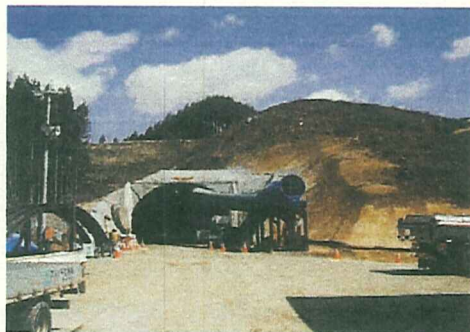
3 快適環境の整備	妊産婦さんと医療機関との間に入り、主治医と連携した検診や相談など、身近なところできめ細かなケアにより、安心安全に医療機関でお産を迎えることができます。 (県内 10 医療機関とネットワーク) - 健康データはネットワーク通信により即時に医療機関に送られ、医師が検診データを確認できるシステム「モバイル遠隔検診」を導入しています。 - 市民誰もが快適な生活「安全で安心でき、ゆとりある地域づくり」を目指すため、市内各地区から課題等を集約し、平成 18 年度から種類の異なる事業（道路・水路・浄化槽設置）を組み合わせ実施していますが、事業費が多くなり計画年度が延長になっています。	- 地方道路整備臨時交付金事業の存続と拡充により道路の整備ができる。 - 地方道路整備臨時貸付金事業の存続により道路の整備ができる。 - まちづくり交付金の存続により区画整理事業が推進できる。	
------------------	---	--	--

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）の整備の必要性

岩手県遠野市



宮守IC～東和IC間の整備状況



①医療：救急医療活動を支援する命をつなぐ道路が必要

現状

- 平成19年度から県立遠野病院には、常勤の産婦人科医と眼科医が不在となっているなど、**医師不足が深刻化**している。
- このため、花巻・北上地域の医療機関への**救急搬送が、158件/年（H19）と、年々増加**している。
- 平成21年度に北上地域に岩手県立中部病院（案）が広域基幹病院として開業予定である。

期待する効果

- 遠野・花巻・北上地域の各医療機関が相互補完し、**地域医療サービスの連携強化**が図られる。

②物流：遠野の安全な農水産物を首都圏の食卓へ

現状

- 遠野市は**ヤマメの生産量が日本一、ワサビの生産量は東北一**となっており、米を中心に農業を基幹とした地域である。

期待する効果

- 関東方面へのアクセス性が向上し、**新鮮で質の高い農水産物の出荷が可能**となる。

③観光：広域周遊観光の支援により地域活性化

現状

- 遠野市には**年間約200万人の観光客**が訪れている。
- 県外からの観光客は**近年3割（H19/H13）増加**している。

期待する効果

- 周遊利便性が向上し、**県外からの観光客増加**がさらに期待される。

④防災：災害時における後方支援拠点施設設備の強化

現状

- 遠野市は「岩手県第3次地震防災緊急五箇年計画」における「**後方支援拠点**」として**位置づけ**られている。
- 災害時には、支援機関等を受入れ、各方面の災害現地を統括する**指令本部機能、支援物資の収集仕分け配送機能**等を有する施設設備となる。

期待する効果

- 災害時における**後方支援拠点**としての強化が図られる。